

# 国と地方のシステムWG（社会資本整備等）において議論があった主要事項について

| 事 項                                                                                                                                                         | 担 当 省 庁 の 対 応 方 針                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1. スマートシティの評価指標</b><br/>           [スマートシティTF（科学技術・イノベーション推進事務局）]</p> <p>スマートシティKPI設定指針において、積み残し課題となっている事項（必須指標の選定、データ収集頻度等）について、更なる対応が必要なのではないか。</p> | <p>スマートシティ評価指標に関する検討の成果や、先行する指標設定・活用例について、R4年度に改訂を行うスマートシティ・ガイドブックに反映し、EBPMの方法論に基づく評価の浸透を図る。さらに、ケーススタディや関係府省における検討を踏まえ、指標の妥当性や指針の課題を整理し、R5年度以降実施する指針等の改訂の検討において、「評価のための評価」ではなく、地域の各主体の活動を後押しできるよう、スマートシティの取組や目指す社会像に即した分かりやすく効果的な評価方法のあり方を検討する。その際、今後利用可能となる様々なデータ活用についての先行分野の事例も参考にする。</p> |
| <p><b>2. 共通データベース等によるデータの蓄積・オープン化</b><br/>           [デジタル庁]</p> <p>政府が保有するデータについて、都道府県や地方公共団体、関係団体、分野間の連携なども含め、今後の利活用に向けて、分類・標準化してはどうか。</p>                | <p>データ駆動社会の基盤であるデータ連携の体系を整備するため、令和4年3月に、データのひな形やガイドブック等により構成されるデータ整備や運用のための体系である政府相互運用性フレームワーク（GIF）を整備し公表した。</p> <p>GIFは、政府が保有するデータを地方公共団体等と相互に連携し、シームレスにデータの交換や利活用できる環境を目指す。標準ではなく参照モデルとして拡張や一部を選択して利用できる。</p> <p>今後もGIFの推進を行い、実際の実装場面からのフィードバックを収集しながら改善を進めていく予定である。</p>                  |

- 国によるスマートシティ施策の評価枠組み・評価指標の設定、及び、地域（自治体・コンソーシアム等）によるスマートシティ施策の評価枠組み・基幹的評価指標についての検討を実施
- EBPMの方法論に基づくスマートシティの施策を評価の枠組みの構築を目指す

内閣府Webサイトに掲載-> [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/smartcity/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/index.html)

## 評価指標等の検討体制

### スマートシティ評価指標に関する有識者検討会 (2021年10月～2022年2月まで3回開催)

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 浅見 泰司 | 東京大学大学院工学系研究科 教授         |
| 石田 哲也 | 東京大学大学院工学系研究科 教授         |
| 井上 茂  | 東京医科大学公衆衛生学 教授           |
| 出口 敦  | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授<座長> |
| 村木 美貴 | 千葉大学大学院工学研究院 教授          |
| 森本 章倫 | 早稲田大学社会環境工学科 教授          |

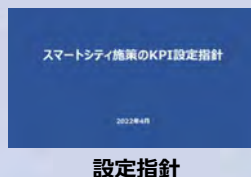
## (検討事項)



## 検討成果の概要

### 地域（コンソ等）施策担当者に向けて

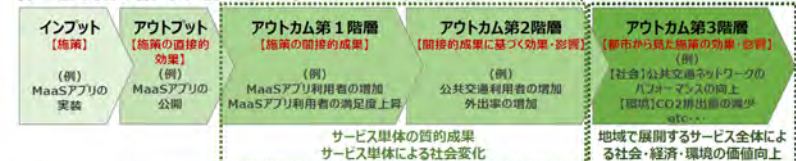
- 地域（コンソ等）に向けた、ロジックモデルの描き方およびKPI設定の指針（案）を作成
- 将来的に、コンソ等が有益な評価指標を検討・設定できる指針となることを目指す



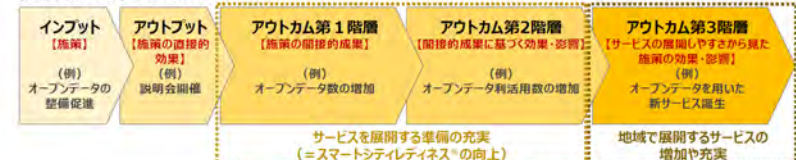
出典：「スマートシティ施策のKPI設定指針」（内閣府）

## ② ロジックモデルの基本形・全体像

【サービス分野のロジックモデル基本形】※実装前の施策（実証実験等）については、本書p21にて別途説明



【基盤分野のロジックモデル基本形】



※スマートシティレジネス（SCR）：各種スマートシティサービスの立ち上げや充実化、維持がしやすい環境の整っている程度を表す指標群 15

- 「新経済・財政再生計画改革工程表2020」（2020年12月）…＜13. スマートシティの推進＞

・ KPI指標の数値を調査、分析、妥当性の検討を行い、必要に応じてKPI指標を見直す。

- 経済・財政一体改革推進委員会／国と地方のシステムWG、EBPMアドバイザリボードでの議論

- 「新経済・財政再生計画改革工程表2021」（2021年12月）（抄）…＜国施策の指標を見直し＞

・ 「12. スマートシティの推進」については、EBPMアドバイザリーボードと連携を図りつつ、KPI指標の数値を調査、分析、妥当性の検討を行い、達成を目指す便益を把握するための指標の導入や質的指標の導入等をはじめとしたKPI指標となるようロジックモデルの見直しを必要に応じて行う。なお、KPI指標の算出の際、適切な評価を行うために調査方法に留意する。

- ・ 2022年度末までにスマートシティ・ガイドブックの改訂を行い、評価、人材、資金持続性等のスマートシティ運営上の課題解決の取組事例等の普及展開を行う。
- ・ 地域におけるスマートシティのKPI設定を促すため、自治体向けKPI設定指針を作成し、周知する。

- 有識者検討会の検討を踏まえ、地域におけるKPI設定を促すための「**KPI設定指針**」を作成（2022年3月とりまとめ、**4月公表**）

- ・ 評価指標設定指針の活用（今後の予定）

## 第1ステップ (R4年度～)

- ・ スマートシティ事業・デジ田交付金事業のKPI設定の際に参考として活用  
✓ 指針（当初版）により、先行する取り組みでのケーススタディを実施

## 第2ステップ (R5年度以降)

- ・ ケーススタディからのフィードバックにより、指針の課題を整理、指標設定・活用例を収集  
✓ アップデートした指針により、スマートシティ事業等での活用を拡大、ガイドブック・アーキテクチャ等への反映を通じ、さらに浸透を図る



- | 対象領域     | 主なKPI                                       |
|----------|---------------------------------------------|
| 居住環境     | 1住宅あたり延べ面積、平均住宅地価                           |
| 公共空間     | 公共緑地徒歩圏人口カバー率                               |
| 安全安心     | 空家率、千人当たり刑法犯認知件数                            |
| 自然環境     | 一人当たり自動車CO <sub>2</sub> 排出量、非可住地面積割合        |
| 移動・交通    | 駅・バス停徒歩圏人口カバー率、通勤時間30分以内の割合                 |
| 買物・食料    | 商業施設徒歩圏人口カバー率、飲食店数                          |
| 医療・健康    | 医療施設徒歩圏人口カバー率                               |
| 介護・福祉    | 福祉施設徒歩圏人口カバー率、福祉施設数                         |
| 子育て・義務教育 | 最寄り保育所まで1000m 未満の住宅の割合、<br>幼・小・中学校数、合計特殊出生率 |
| 高等教育     | 高等学校数、大卒・院卒者割合                              |
| 地域とのつながり | 高齢者単身世帯割合、自殺者数                              |
| 雇用       | 完全失業率、席雇用者比率、高齢者有業率                         |



4

# Well-being指標によるダッシュボード評価

(デジタル庁において仕組みを検討し、提供予定。Type2/3において当該ダッシュボードを活用したKPI評価を行う。Type1においてもその活用を検討)

- **Well-Being指標によるダッシュボード評価を基本とするが、難しい場合、SustainabilityやInnovation各分野における客観指標・取組指標のうちのいずれかの指標を設定。指標はプロジェクト単位ではなく、エリア単位でコミット。**
- 常にリアルタイムでモニタリングを目指し、**当該指標が支える特定のビジョンに総動員された、国、自治体、産業界、大学・高専、市民が全員で、指標が改善しているか否かを評価。**その理由を検証し、**アジャイルに改善。要すれば制度改革も視野。**



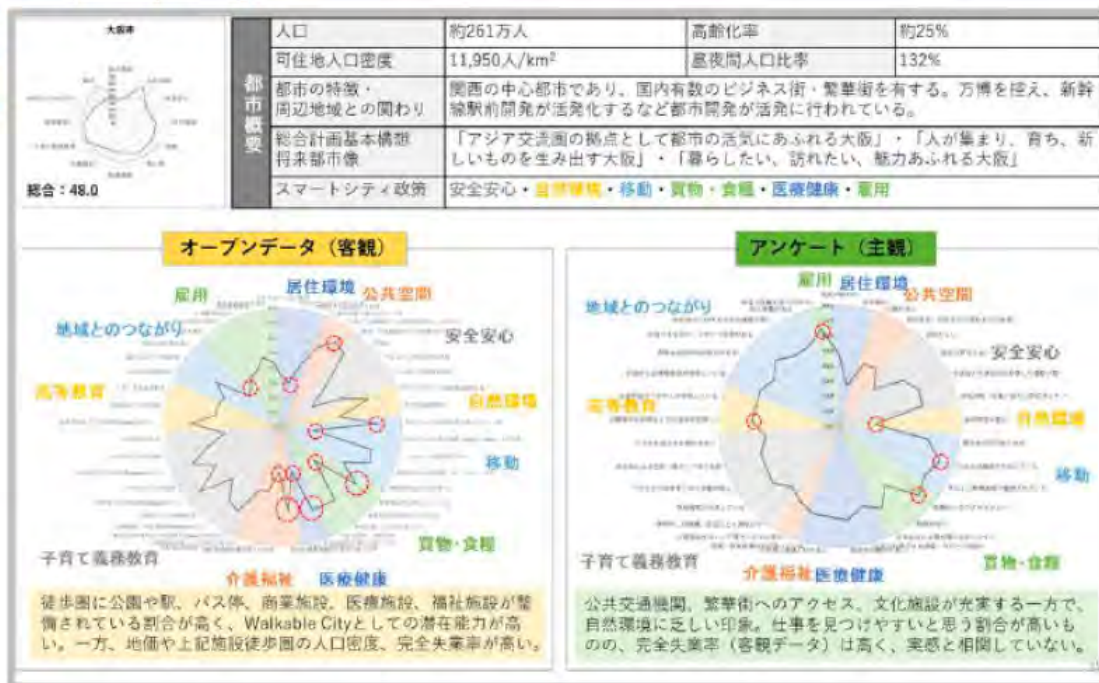


## 現在準備中のWell-Being指標について



- 主観指標（時系列比較に強い）と客観指標（地域間比較に強い）の2種類の計測をめざします。
- 結果は、以下のようなレーダーチャートのような形で表し、それぞれの地域が、取組全体として改善の有無と課題を検証するのに役立てます。決して、エリア間の順位付けや第三者による比較は、行いません。
- 当該レーダーチャートとそのバックグラウンドとなった指標は、極力公表することを目指します。その評価や改善方法に対するコメントも、広く集めていきます。

- 計測に必要なオープンデータの収集については、RESASをはじめ、リアルタイムデータを中心に、国が積極的にデータを収集し提供します。
- 主観指標については、計測のためのアンケート調査票を設計し、集計・分析方法のガイダンスとともに、本年6月を目途に、無償提供を開始します。
- 客観指標については、必要なデータがダウンロードでき、レーダーチャートを作れるサイトを構築し、無償で提供します。本年6月を目途にサービスを開始し、徐々に利用可能エリアを広げます。



## ● 効果的な活用事例について、先行分野での例を参考とする。

### 都市再生の推進に係る有識者ボード 都市再生におけるデータ活用推進WG

働き方の変化やデジタル化の進展、脱炭素社会の早期実現など、めまぐるしく変容する都市を取り巻く環境において、柔軟かつ機動的に都市再生を進めていくため、既存の統計データ等の更なる活用に加え、人流や消費活動等の動的データを積極的に活用し、都市活動の推移や地域ごとの比較などを踏まえた都市再生のPDCAや民間投資の呼び込みを促進するためのデータ利活用のあり方について検討を行うとともに、データ利活用の事例検証を目的としたトライアルを行いました。

WGにおける検討を踏まえ、各地域において、データ利活用しつつ、柔軟かつ機動的な都市再生を進めていくため、現行の「評価マニュアル」を改定するとともに、新たに「モニタリングマニュアル(案)」を策定しました。

#### 既指定地域における評価マニュアル・モニタリングマニュアル(案)

- ▶ 第6回 (令和4年3月2日(水)開催)
- ▶ 第5回 (令和4年1月27日(木)開催)
- ▶ 第4回 (令和3年11月17日(水)開催)
- ▶ 第3回 (令和3年10月12日(火)開催)
- ▶ 第2回 (令和3年9月7日(火)開催)
- ▶ 第1回 (令和3年8月3日(火)開催)

都市再生緊急整備地域  
モニタリングマニュアル  
(案)

出典:「地方創生サイト」(地方創生推進事務局 - 都市再生・未来技術)